

令和7年度 電気学会 高校生みらい創造コンテスト講評

電力・エネルギー部門編修委員会委員長

清水 雅仁

高校生みらい創造コンテストは、高校生が電気・エネルギー技術および環境問題を身近なものと感じ、我が国の基盤を支える重要な技術であることや、未来を拓く有望な技術であることを理解し、電気工学を学ぶ契機となることを期待して始めたものです。

電気・エネルギーおよび環境を対象とした実験、測定、計算、設計などを自らの発想で行った報告や高校生らしいユニークな発想の掘り起こしを求めています。

本年は、全国の高等学校、工業高等専門学校21校から29編の応募作品があり、厳正な審査の結果、論旨の展開、独創性、発展性、客観性、分析力、発想力など幅広い観点から評価し、最優秀賞1編、優秀賞1編、佳作6編を選考しました。

今回も興味深く、楽しく、そしてユニークな内容の作品が数多く見受けられました。身近な施設のエネルギー消費と省エネ効果を分析した作品や身近な材料を使用した固体電池の作製など電気に直接かわる作品がある一方で、検討に人工知能(AI)を活用した作品など近年注目を集める最新技術を取り入れた作品もありました。

今回の審査を通して、現代の高校生が電気エネルギーに関する技術や課題に対しどのように考えているのかを読み取るとともに、現代社会の誰もが関わる電気エネルギーについて、我々電気学会の会員が分かりやすく伝えていくことの重要性を再認識しました。また、コンテストに参加した高校生の中から、近い将来に、電力・エネルギー分野で活躍する研究者、技術者が現れることを期待します。

今年6月には、次回コンテストへの参加募集を開始致しますので、引き続き多くの高校生に参加願えるよう指導員の先生方および関係者のご協力をお願い致します。

最後になりましたが、本コンテストの企画・推進にあたり、共催のパワーアカデミーより多大なご支援、ご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。